

平成21年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 キチジ

学名 *Sebastolobus macrochir*

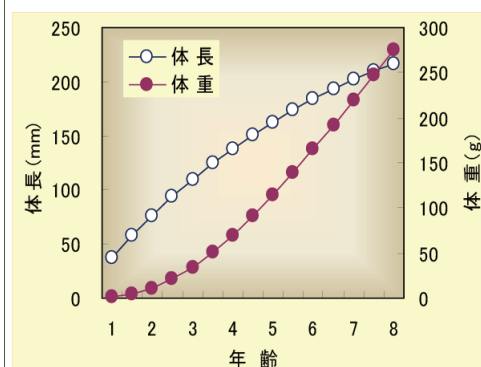
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 20歳程度
成熟開始年齢: 雄3歳、雌5歳
産卵期・産卵場: 1～4月、分布域全域
索餌期・索餌場: 周年、水深350～1,300mの深海域
食性: エビ類、オキアミ類、クモヒトデ類、端脚類、多毛類、魚類
捕食者: マダラ、アブラガレイ

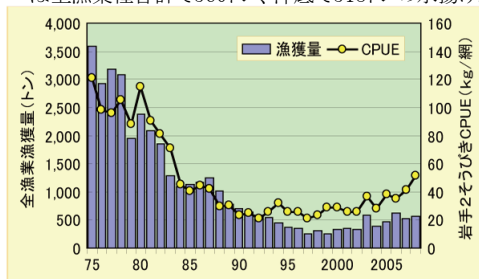


漁業の特徴

太平洋北部では、キチジは主に沖合底びき網漁業(沖底)で漁獲されるほか、小型底びき網漁業、底延縄、底刺網で漁獲される。近年、沖底船は9～12月にスルメイカを狙って操業することが多く、スルメイカより深場に生息するキチジに対する漁獲圧は以前より弱くなっている。しかし、資源量の増加によりキチジ狙いの操業が増える可能性があり、今後の動向を注視する必要がある。

漁獲の動向

全漁業種類による漁獲量は1975～1985年にかけて急激に減少し、1997年まで減少の一途をたどった。沖底の漁獲量も同様で、1970年代には2,000トン前後と高い漁獲量を維持していたが、その後、減少傾向が続き、1997年には過去最低の229トンとなった。その後、沖底の漁獲量は増加し、2003年以降は500トン前後で推移している。2008年には全漁業種合計で560トン、沖底で518トンの水揚げがあった(暫定値)。



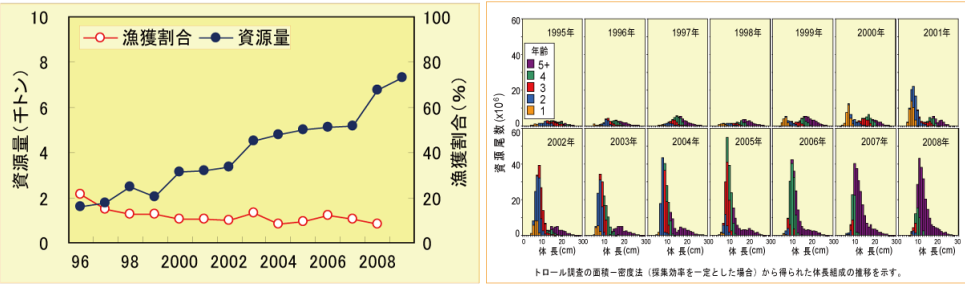
資源評価法

秋季にトロール網による底魚類資源量調査を実施し(水深150～900m、計148地点)、面積－密度法により資源量を推定した。調査海域は青森～茨城県沖で、太平洋北部のキチジの分布範囲をカバーしている。曳航式深海ビデオカメラとトロール曳網調査により、本調査で用いたトロール網の身網による採集効率(網の前にいた魚が網に入る比率を示す係数)にLogistic式を仮定し、この値を用いて資源量の計算を行った。

資源状態

長期的にCPUEは減少傾向にあったが、近年のCPUEはほとんどの海区で増加傾向に転じている。また、近年の資源量推定値は増加している。漁獲量およびCPUEの長期的な推移から、太平洋北部のキチジ資源は中位水準にあると考えられる。近年の資源量推定値およびCPUEが増加していることから、資源の動向は増加傾向と考えられる。しかし、近年、加入が少ない年が続いており、卓越年級群である1999～2002年級群の成長による増重により資源量が増加しているが、2005年以降の資源尾数には減少傾向が認められる。





管理方策

キチジの資源は中位水準にあり、近年の資源量は増加傾向にあるが、2005年以降の資源尾数には減少傾向が認められる。本報告では、悪い加入が続く可能性を考慮し、漁獲を現状以下に抑えることで親魚量の増加を計ることを資源管理目標とした。キチジは成長が遅く、成熟年齢が比較的高齢であるため、管理基準値にFcurrentより低いF40%SPRを採用し、それを8割に削減した時の漁獲量をABClimitとして算出した。

	2010年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	660トン	0.8F40%SPR	0.09	8.0%
ABCtarget	530トン	0.8・0.8F40%SPR	0.07	6.5%

- ABCは10トン未満を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- キチジの資源は中位水準にまで回復し、増加傾向が認められる
- 2005年以降の資源尾数には減少傾向が認められる
- 今後、悪い加入が続く可能性がある

管理方策のまとめ

- 漁獲を現状以下に抑えることにより、当面の親魚の増加を計る
- 単価が安い小型魚の漁獲を控えれば、親魚量が増加し、その後の加入量の増加も期待できる
- 漁獲開始年齢の引き上げはキチジの資源管理に有効な方策と考えられる

平成21年10月22日

資源評価は毎年更新されます。